

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入) 平成 24 年度

事業所番号	2795600010		
法人名	有限会社 ディスカバリー		
事業所名	認知症対応型共同生活介護事業所ホリ		
所在地	大阪府泉南市中小路2丁目1860番地の1		
自己評価作成日	平成 24年 3月 30日	評価結果市町村受理日	平成 24年 6月 29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

個々にその人らしく生活を送って頂けるよう、その人それぞれに対応の仕方をかえています。隣接する病院等の支援もあり、入居者さんと家族さんの安心につながっていると思います。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2795600010&amp;SCD=320&amp;PCD=27">http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2795600010&amp;SCD=320&amp;PCD=27</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会 福祉サービス第三者評価センター		
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内		
訪問調査日	平成 24年 4月 19日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域で活躍している医療法人と、同系列の有限会社ディスカバリーが運営する3階建て3ユニットのグループホームです。ホームは同系列病院と隣接して設置されており、24時間医療連携支援を行っています。管理者は同市の介護予防事業に積極的に協力し、認知症サポーター育成に努めながら職員研修に力を入れています。ホーム内は広々として空調も整い、利用者が歌体操やレクリエーション活動に取り組みやすい環境づくりをしています。保育園との連携、小学校・中学校の職業体験受け入れ、多くの地域ボランティアとの協力体制を作るなど地域連携を深めています。運営推進会議では地域ボランティアや小学校の校長など、幅広いメンバー構成を行い、参加を得ています。消防署の支援を受けて、煙に巻かれた場合の避難方法など、実際に煙を使った訓練を行い安全確保に力を入れています。サービス向上委員会を設置し、夜間の職員配置を増やして利用者支援を充実するなど業務改善に努めています。職員の定着率が高く、法人事務局との連携も良く、安定したサービス提供を行っている事業所です。

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は明文化され、ホーム内に掲示しています。ミーティングや会議の際に業務が理念にあっているか確認しています。また、月例会議には地域密着型サービスの意味についても話しあっています。	事業所理念として「個人の尊重」「地域のみなさまと認知症進行の予防」「家庭的な雰囲気作り」を掲げ、ホーム内に掲示しています。理念は職員間で共有し、地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所運営を行っています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の保育所、小学校、作業所、介護者家族の会、民生員、介護相談員の方々と交流しています。グループホーム側として何かお役に立てないかと思い、わずかですが、プルトップ収集や、廃品回収をおこなっております。	利用者は地域ボランティアの支援を受けて大正琴・和太鼓・紙芝居・ちぎり絵・書道・歌と体操・バンド・ドッグセラピー・少年少女合唱団の歌声・しし舞、ボランティアとの会話などを楽しんでいます。また、小学生・中学生の職業体験学習を受け入れたり、保育園とは行事の際に相互に行き来するなど、交流を図っています。地域の子育て支援行事にも法人として場所を提供し、地域の親子と交流の機会を設けています。小学校の校長先生が運営推進会議の委員として参加するなど、地域との連携はさらに深まっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている	地域密着型サービスの意見交換や運営推進会議時話あったり、理解を得る為サポーター養成活動に参加しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	<p><b>○運営推進会議を活かした取り組み</b>            運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>2か月に1回、運営推進会議を開催。実際に介護されている方々も参加されている事から様々な方向での話し合いを行い、意見交換の場としています。</p>	<p>運営推進会議は2か月に1回、定期的で開催しています。メンバー構成は利用者家族・市職員・地域包括支援センター職員・民生委員・地区福祉委員・小学校校長・障がい者作業所職員・相談支援センター職員・ボランティア・事業所職員等、幅広い層の参加を得ています。会議では職員がホーム行事や取り組みについて報告を行い、利用者の日常支援等について話し合っています。</p>	<p>管理者は、運営推進会議の運営規程を新たに作成し、幅広いメンバー構成等を明記する予定です。今後の取り組みが期待されます。</p>
5	4	<p><b>○市町村との連携</b>            市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる</p>	<p>地域密着型サービスの意見交換に加え、サポーター養成の取り組みも一緒におこなっている。            現在では、さらなる取り組みに力を入れ、協力関係を築いています。</p>	<p>市の担当課職員は、介護予防等のサポーター養成講座や、市の歌を基にした歌体操の普及など、積極的な取り組みを進めています。ホームでは市と歩調を合わせて介護予防に力を入れ、歌体操を普及したり、サポーター養成の取り組みを進めたりしています。また、市担当者との情報交換を行い、事業所運営や利用者支援についても相談しながら進めています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p><b>○身体拘束をしないケアの実践</b>            代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>玄関の施錠については、我々の自宅同様、閉めておりますが、内側にドアチャイムを設置し、対応しています。</p>	<p>入居利用契約書に「身体の拘束等」の項を設け、原則として身体拘束を行わない事を明記しています。身体拘束については職員研修を行い、「どのような行為が身体拘束になるのか」等について学習し、理解を深めています。玄関については利用者家族、職員間で話し合い、現在は安全確保のために鍵をかけています。利用者が外出を希望される場合には、職員が付き添って外出し、納得されるまで対応しています。</p>	<p>安全確保について十分な確認を行った上で、玄関に施錠をしない取り組みを進めることが期待されます。</p>
7		<p><b>○虐待の防止の徹底</b>            管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>内外研修、民間の情報に加え、隣接の施設と協力した研修も行い、虐待に対する知識を学び、共有しています。</p>		
8		<p><b>○権利擁護に関する制度の理解と活用</b>            管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>相談員がその都度対応している。この時、一緒に話す機会がある。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前相談時、又は、入居後においても、その都度対応し、説明しています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置しておりますが、入る事はありません。面会時に直接言って頂ける事が多く、ご本人に対する介護又は運営に反映させて頂いております。	サービス向上委員会を開催し、利用者、家族の意見や要望を確実に把握し、実現するように取り組んでいます。各ユニットで「伝言ファイル」を作成し、家族の来訪時に意見や要望を聴取し、記録をして職員間で共有しています。また、ホームからの連絡内容をあらかじめ伝言板に記録しておき、1階フロントで職員が必ず家族に伝えるようにしています。伝言板を通じて家族との連携が深まっています。また、運営推進会議では、利用者家族をメンバーとして発言の場を設けています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のヘルパー会議を利用し、入居者さんや家族の訴え、希望に対し、良い方法を一緒に考え反映させる様、努めています。	管理者は、日常的に職員の意見や要望を聞き実現に努めています。月1回の職員会議では職員間の意見調整を行い、法人全体での対応が必要な事項については、上層部と相談をして職員間の意見が反映されるように努めています。結果として、職員の定着率が高い状況が見られます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		<p><b>○就業環境の整備</b>                      代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>職員が望む研修、必要性のあるものに対し参加してもらっています。</p>		
13		<p><b>○職員を育てる取り組み</b>                      代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>内外部の研修も含め大阪認知症高齢者グループホーム協議会にも属している為、その研修にも参加しております。</p>		
14		<p><b>○同業者との交流を通じた向上</b>                      代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>市開催の情報交換会に出席し、交流を通じて質の向上に取り組んでいます。</p>		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<p><b>○初期に築く本人との信頼関係</b>                      サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入所前に家人さんを交えて話しする機会を作っております。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の要望については、面会時を利用して話すなど、行っています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他科時受信等で家人同行出来ない場合には、こちらで対応させて頂いております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	同じ目線で物事を考えられるよう努めております。外出先の希望であったり、外食先の希望を聞き、一緒に考えたりしています		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の帰りの時は、玄関先で一緒に見送りをしたり、伝言時には、要望だけでなく、数日の様子などを伝える様になっています。特に家族さんとの外出、外泊時、不穏状態になられた場合には、時間を問わずグループホームでの対応をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>面会は、自由。町内会長さんの面会もあります。</p>	<p>友人や知人など、面会に来られたら歓迎しています。年賀状や季節のあいさつなどは、希望者があれば一緒に取り組み、これまでの関係が続くよう通信での交流も大切にしています。公衆電話を設置して利便性を図っていますが、携帯電話を希望される場合には、昼間に使用されるように助言しています。</p>	
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>レクを中心とし、同ユニットの入居者さんだけでなく、他のユニットの入居者さんとの交流もあります。</p> <p>孤立しないよう、声かけし、誘導するなど、個々に対応しています。</p>		
22		<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>必要に応じて電話連絡する等、おこなっています。</p>		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に本人、家族から意向を聞いた り、今までの生活状態を記入してもら う等、しています。	入居時に利用者の生活歴や嗜好品、 趣味、特技等を聞き取り、職員間で共 有しています。利用者の日常生活での 思いや意向については雑談の中で聞 き取ったり、個別に話をする機会に確 認したりしています。はっきり意向を示 されない場合には、素振りや表情を見 て対応したり、家族の意見を聞いたり しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし 方、生活環境、これまでのサービス利用 の経過等の把握に努めている	用紙を使用し、記入して頂いた物を元 に把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状 態、有する力等の現状の把握に努めて いる	申し送り時に、入居者さんの状態を伝 える事で、その都度の対応に努めてい ます		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>月1回、職員参加にて、介護計画について話しあっています。担当者会議録にて、家族さんの意向を取りいれています。</p>	<p>介護計画書は月1回担当者会議を開催し、話し合いをして作成しています。必要時には家族と話し合うこともあります。6カ月に1回アセスメント、モニタリングを行い、見直しをしています。しかし、それ以外でも利用者の状況に応じて必要があればその都度見直しをしています。介護計画書は利用者の自立支援を意識して作成し、目標設定も具体的で分かりやすくしています。介護計画書は職員間で共有し、「ケアプラン実施記録票」で実施状況を確認しています。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>個人の支援経過記録表やケアプラン実施記録表等の記入で、どのスタッフも情報、状態が把握しやすくなっています。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>入居者さんの、その時々にも状態に応じた対応を変化させています。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の施設を利用し、外出日をポスターで知らせ楽しみを持って頂けるよう、支援しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者さんの他科受診の際は、家族さんが、同行出来ない場合、こちらで対応後、受診内容を電話連絡等で伝える様にしています。	かかりつけ医の受診については、利用者・家族の希望を尊重しています。受診には家族が同行しますが、家族の都合が悪い場合には、職員が付き添い支援をしています。その際、受診結果については速やかに電話連絡等で家族に報告しています。内科、眼科、歯科については、希望があればホームへの訪問診療も受けられます。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護は1W/1回の為、言葉で伝え往診については、月/2回の為、必要な内容をまとめ、その時に立ち会ったスタッフ誰もが伝えられるように支援しています。 体調不良時には、適時、受診を促しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時、日頃の生活状態を伝え、出来るだけ、同じ状態で入院生活を過ごせるようにし、入院中も定期的に病院関係者との会議の中で状態を報告して頂き早期退院につとめています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	将来入居者さんが重度化し、週末を迎えた場合のホームとしての対応方針を決め、家族と話し合いながら準備をしています。	終末期支援についてはできること、できないことを明確にし、入居時に利用者や家族に説明をしています。また、医療連携支援についても、緊急時の延命措置などの対応について、事前に家族の希望等を文書で確認しています。重度化された場合については主治医を含めて話し合い、個別に対応を検討しています。同法人系列の病院が隣接していることもあり、利用者家族は医療連携支援への期待が大きく、ホームでの終末期支援についての要望は少ない状況です。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	地元の消防署による、救命講習にも参加させて頂いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議時に地域の皆さんと一緒に、避難訓練を行うなどしています。	災害時対応マニュアルを基に、消防署の協力を得て年2回の防災避難訓練を実施しています。今年度は「煙にまかれたらどのようになるか」を実際に体験し、地域の人々も見守る中、利用者と共に避難訓練をしています。職員は消防署と協力して準備したテントの中で煙が充満した状態を作り、中に入って視界が遮られ煙でせき込む状況を経験し恐さを知りました。煙の中での避難方法等については、消防署の指導を受けています。災害時の備蓄は津波災害を想定して隣接する施設の4階に保管しています。また、水分でのカロリー補給を考えて法人施設内の自動販売機の商品すべてを災害時には活用できるように販売会社と提携しています。ホーム内には一日分程度の食品類を備蓄していますが、水の保管はしていない状況です。	管理者は今後、備蓄用の水の保管を一部ホーム内にも配置するよう調整する予定です。今後の取り組みの成果が期待されます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者さんの誇りやプライバシーに注意をはらい、地域の方言も守りつつ、会話するようにしています。	「個人の尊重」を理念に掲げて、一人ひとりの尊重とプライバシーの遵守を重視した対応をしています。管理者は接遇研修に力を入れており、方言等も理解して対応するよう職員を育成しています。また、個人情報保護については「秘密の保持及び個人情報の保護」として明文化し「職員が業務上知り得た情報を・・決められた目的以外に・・正当な理由なく洩らしません」と入居利用契約書に明記しています。個人情報を記載した書類やデータ等は、厳重に保管するように職員間で徹底しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段の何気ない会話の中にも希望が見え隠れしている為、対話を大事にしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	新聞を見たり、食後の休憩等、一人一人のペースや意向に合わせています。 思い思いに、パズル、将棋等し、過ごされています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に1回の理美容時には、顔そりしてもらったり、外出時には、口紅をぬる人や、外出着に着替えるなど、されています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者さんと一緒にメニューを考えたり、下膳、お盆拭きなども、していただいております。	チルド食品、一般食材に分けて2社から食材を購入し、バランスの良い食事作りをしています。職員は利用者と同じものを一緒に食べて味わうようにはなっていない状況です。しかし、毎週金曜日は、職員と利用者で献立を作ったりして食事作りを行い、職員は利用者と共に味わい、食事を楽しんでいます。利用者は後片付けなど得意な分野で役割を持っていますが、食事作りには参加していない状況です。回転寿司やレストランなどに出かけたり、行事で出かける際にお弁当を購入したりして毎月1回程度の外食を楽しんでいます。	ホームでは今後、利用者と共におやつ作りや食事作りを行うように取り組む予定です。今後は、利用者が食事作りでも活躍される事が期待されます。また、今後は職員も毎日1回程度は利用者との共感ができるようにしてははいかがでしょうか。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量の把握、水分摂取量のチェックをしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声かけし、必要な方には、一部、全介助おこなっています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来る限り、トイレにて排泄が出来る様にトイレに誘導し自立にむけた支援をおこなっています。車いすを使用されている人には、自立にむけ、個人用居室トイレの扉をはずす等、個別に支援方法をしています。	利用者一人ひとりの排泄時間を確認して声かけや介助をしています。利用者ができることは見守りながら、時間を見てトイレに誘導するなどの対応をしています。車イスの利用者がトイレで排泄ができるように居室のトイレの扉を外して広くするなどの工夫もしています。おむつ類の使用については本人の意向を確認し、最低限の利用にとどめています。排泄後の清潔については配慮し、必要な場合にはシャワー浴を行う場合もあります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、排便確認を行うと共に、訴えない人には、便器内の付着確認であったり、便秘時には、主治医に相談するなど、しています。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	お風呂嫌いの方が多く、タイミングを見計らってしていますので個々の希望にそった入浴時間は、難しく出来ていないような気がします。	週3回の入浴を勧めています、入浴を好まれない場合には回数が少なくなっている場合もあります。利用者の希望に添って予定の日以外でも、連日でも入浴している記録があります。時間帯や入浴の順番などは、お風呂を好まれない方の希望を優先して対応しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠れない時には、ホールでお茶を飲んで頂いたり、その時々状況に合わせて支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の変更時、体調の変化時には、申し送りし、誰もが、わかる状態にして、注意しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	字を書くのが好きな人には、メニュー書きを、将棋の好きな人には、同じ趣味の人同士で、と、個々の特徴をいかし支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々の外出は、出来ていませんが、外食時の希望では、ユニットで多数決をとる等しています。	毎月1～2回、行事や外食等に皆で出かけています。気候の良い時期には希望に添って買物に出かけたり、近くに散歩に出かけたりしていますが、最近では散歩や買物に出かける機会が少なくなっています。	ホームでは日常的に外に出て散歩をするなどの機会を増やすように検討しています。当面は利用者一人ひとりが週1回以上の外出を目標に取り組みまれてはいかがでしょうか。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を自己管理している人には、訪問のヤクルト販売員から、購入したりなど、買い物を楽しんで頂いております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	施設内に公衆電話を設置してあるので、思い思いに使用されています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	<p>○居心地のよい共有空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>体感温度に急激な変化を生じないように、居室だけでなく、廊下・浴室・脱衣所にも、エアコンを完備し、対応しています。</p>	<p>共有空間が広く、食堂兼居間では一度に50人程度が集まれるようなスペースがあり、3ユニット合同の音楽鑑賞やレクリエーションも可能な状況です。日当たりが良く、駐車場が目の前に広がる眺めの良い場所に食卓を置き、明るい場所で食事をしています。トイレや風呂は家庭的で使いやすく工夫しています。玄関は草花や植栽を置き、手造りの飾り付けをして家庭的に、外来者も楽しめるように工夫しています。空調に配慮して利用者が共有空間でゆっくり過ごせるように工夫しています。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>共用空間の隅に椅子をおくなどし、個々に過ごせる場面作りをしています。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具、鏡台など、持ち込んで頂いております。	居室には備え付けの多目的収納タンス、ベッド、洗面台、トイレがあります。利用者はタンスを工夫して仏壇を置いたり、お茶道具を置いたり、それぞれが自由に活用しています。また、自作の絵や写真を飾ったり、テレビを置いたり、衣装ケースや鏡台を置いたり、それぞれが使いやすいように工夫して個性的な居室になっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車いすの方でも、居室の自分専用のトイレを使用出来る様な支援をしています。		